# 熊本県立甲佐高等学校　令和４年度（２０２２年度）学校評価表

## １　学校教育目標

「夢実現　～百見は一験に如かず～」

ア　教育方針

（ア）県教育委員会関係課から出されている「令和４年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。

（イ）カリキュラム・マネジメントを推進し、チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ　教育目標

（ア）健全な心身の育成

①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。

②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心（恕の心）や、奉仕する心を育てる。

③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。

④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。

（イ）学力向上と進路指導の充実

①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。

②面談やＬＨＲ等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組ませる。

（ウ）地域社会と連携した学校づくり

①一人ひとりの活動する機会を工夫する。

②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。

③地域と連携した教育実践を更にすすめる。

④創立百周年の記念事業を終え、今後も地域の方々に来校いただく機会を増やすことにより、学校、生徒理解につなげ、信頼される学校づくりを目指す。

（エ）郷土を支える人材（人財）の育成

①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。

②地域創生の観点からも、将来的に地域の経済社会を担っていく人材、ひいては、組織の中で必要とされる人的な財産としての人財を育成する。

ウ　熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像

**創立１０２周年の歴史を誇る学校**
**「夢　　実　　現」**
**～百見は一験に如かず～**

**【学習・進路】**
**（自主性・高い進路目標）**

- 一時間一時間の授業を大切にし、学力向上に努力する生徒。
- 学習することの意義や目的をしっかり考えて授業に参加する生徒。
- 習熟度別学習により、学習に対する意欲を高め、「予習→授業→復習」という学習計画を立て着実に実行する生徒。
- 返却されたテストをもとに自分の弱点を分析し、その克服に努めることができる生徒。
- 早い時期から、将来の進路目標を設定し、その達成のため、主体的に学習に励む生徒。
- 学びの基礎診断ツール等を活用することにより、自己の適性を的確に把握し、より高い進路目標に向け努力する生徒。
- 体験学習を通して、勤労観や職業観を身に付け、進路に生かす生徒。
- 「公営塾」を活用することで基礎学力を向上させ、自己の長所を伸ばすことに努力する生徒。

**【生　活】**
**（基本的生活習慣の確立）**

- 自ら進んで初対面の人に対しても挨拶ができ、誰に対しても誠実な態度で接することができる生徒。（校門一礼も含めて）
- 人権を常に尊重し、思いやりのある言葉遣いで、他者とのコミュニケーションをとることができる生徒。
- 交通法規やマナーを常に遵守し自他の生命を大切にする生徒。
- スマートフォンやＳＮＳ等の正しい使用を遵守し、モラルの向上に常に努める生徒。
- 社会のルールに従って、節度ある行動をとることができる生徒。
- 自分の長所や短所を把握し、自己の能力の伸長に努める生徒。
- 校歌を大きな声で歌うことにより、母校愛を高める生徒。
- 甲佐高校の生徒として、友人、先生、保護者、地域等多くの方々から信頼される行動を取ることにより、学校への評価を更に高める生徒。
- 日々の生活の中で、今まで身に付けたことを応用し、課題の解決に取り組むことができる生徒。

**【特別活動】**
**（心身の鍛練）**

- 部活動に積極的に加入し、日々の活動を通して心身の健全な育成を図る生徒。
- 学校行事や生徒会活動等に積極的に参加することにより、自己肯定感を高め、自信を持って行動できる生徒。また、自分の所属する集団に貢献することができる生徒。
- ボランティア活動や地域の行事等に積極的に参加することにより、郷土を愛する心を高め、地域社会の発展に寄与する生徒。
- 人との活動の中で、グループの一体感を作り出すことができる生徒。
- 体験活動を通して、社会人としの在り方を考え、自分の将来像を描くことができる生徒。
- 地域の小・中学校との交流を積極的に図り、本校のＰＲ活動に努める生徒。
- 地元企業等との交流を通して、郷土を支える人材（人財）に成長する生徒。

**甲佐高等学校** ⇔ **連携** ⇔ **保護者・分教室・緑友会・甲佐町役場・公営塾**
**各小中学校・各企業・福祉施設・レオクラブ　等**

２　本年度の重点目標

ア　基本的な生活習慣の確立

（ア）正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身につけさせ、社会に適応する力を育てる。
（イ）時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。
（ウ）交通マナーやＳＮＳ等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。
（エ）クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。

イ　教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

（ア）「授業力」の向上
　生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。
（イ）個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。
（ウ）夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。
（エ）日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。

ウ　特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

（ア）部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。
（イ）学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人材（人財）を育成する。

エ　地域と連携した教育活動

（ア）広報活動や学校運営協議会（総合型コミュニティスクール）等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。
（イ）保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。
（ウ）職員の中学校別担当制を更に充実させ、中学校へのＰＲ活動等を強化することにより、入学者増を図る。
　※熊本スーパーハイスクール（KSH）構想のクリエイトハイスクール、スーパーグローカルハイスクールの指定を受け、地域連携・協働による教育活動に誠意をもって丁寧に取り組み、更なる充実を図る。

オ　言語環境の整備

（ア）学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。
（イ）図書館の充実を図る。

カ　教育相談体制の充実

（ア）全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。
（イ）各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。
（ウ）中高連携を更に充実させ、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、進路変更を減少させる。

キ　防災教育の徹底

（ア）熊本地震を教訓とした防災教育の充実を図る。
（イ）地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。

３　自己評価総括表

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 活気ある学校 | 体験学習・ボランティア活動の充実（教育目標②） | ・自ら積極的に体験することで、奉仕や勤労、命を大切にし、人権を尊重する心を育む。 | ・３年ビジネス情報科で校外実習の更なる推進を図る。<br>・校外でのボランティア活動に積極的に参加し、人を思いやり心（恕の心）と奉仕の心を育てる。 | B | ・長期インターンシップ、販売実習ともに計画通り実施ができた。<br>・コロナ禍で高齢者施設訪問等が実施できなかったが、甲佐町１０マイルロードレースや甲 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 佐町の緑川スポーツフェスタで多くの生徒がボランティア活動に参加した。 |
| | | 学校行事等で育む自ら考え行動する生徒 | ・学校行事等に自ら積極的･創造的に参加する。 | ・全ての学校行事に生徒中心の創造的な企画と運営に取組む。<br>・学校行事での役割分担と協力体制を明確にし、生徒一人ひとりが達成感を味わえるようにする。 | A | ・スポーツフェスティバルや青垣祭など生徒の主体性が前面に表れる学校行事が実施することができた。 |
| | | 部活動の活性化<br>（教育目標③） | ・社会(地域)と関わり、年間を通して活発に活動する部活動の育成 | ・しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部とする。<br>・行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする。 | B | ・それぞれの部活動で、計画的に活動ができ、大会参加やその結果にも日ごろの成果が表れていた。 |
| | 信頼される学校 | 育友会、地域、同窓会との連携・協力 | ・地域連携を深める事業の構築 | ・学校運営協議会や関連した会議を通して、連携を深める。<br>・公営塾（あゆみ学舎）との情報交換会を月毎に行い、利用者の増加と企画参加を促す。 | A | ・３回の学校運営委員会を開催し、各方面からの意見をいただき学校の活性化を進めた。<br>・月１回のあゆみ学舎との情報交換会を開き、探究活動やコミュニケーション講座、集中学習会などの行事をとおして連携を行った。<br>・あゆみ学舎への加入者は例年並みだが参加数が少なかった。 |
| | | 保護者・地域等との連携と効果的説明・広報 | ・情報発信の強化<br>・次年度の入学生40人以上、最低でも30人以上を目標とする。 | ・「学校だより」の毎月発行<br>・安心メールによる情報提供推進<br>・本校の教育活動を積極的に情報発信することで、次年度の生徒数増に繋げる。<br>・中学校を定期的に訪問し、中高連携の回数を増やす。 | B | ・学校だよりは毎月発行し、ＨＰや町内の学校や役場等に配付した。<br>・保護者・生徒に必要な情報をスピーディに安心メールにより発信した。また、欠席や遅刻の連絡を安心メール上でできるようにした。<br>・コロナ禍により中学校訪問が不十分であった。<br>・中学生の高校訪問希望にすべて対応した。<br>・次年度の入学生が３０人を超えることは難しい状況である。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 緊急時対応の充実 | ・危機管理マニュアル、緊急時対応マニュアルや安心メールを活用し、防災意識や危機管理対応力を高める。 | ・緊急時対応マニュアルを基に避難訓練や救急救命講習等を実施する。<br>・安心メール登録100%実現<br>・大規模災害の発生を想定した対応訓練の実施<br>・危機管理マニュアルの改訂と充実 | A | ・避難訓練や救急救命講習を実施した。特に避難訓練は地域の住民方々と合同で行った。<br>・令和４年度の危機管理総合マニュアルを改訂した。特に、生徒の救急時の対応マニュアルを全職員が動きやすいものに改訂した |
| | 業務改善・働き方改革 | 職員の連携と共通理解 | ・働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善<br>・生徒との時間を確保し、生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる。 | ・ＩＣＴを活用した業務の効率化を図る。<br>・毎月衛生推進委員会を実施し、勤務状況を把握、分析し対応策を全体にアナウンスし個々に示す。<br>・学年内の職員間の打合せを綿密に行い、共通理解を図りながら校務に当たる。<br>・生徒目線でのかかわりを大切にしながら信頼関係を築き、夢を語る雰囲気をつくる。 | A | ・毎月行う衛生推進委員会で、職員の勤務実態を委員で把握し、職員会議で働き方の改善点や呼びかけを行った。昨年度に比べて、勤務超過時間の縮減につながった。<br>・職員の月別の超過時間推移をグラフにして個別にわたし、可視化することにより働き方の意識を高めることを行った。<br>・生徒の情報を職員間で共有し、一人一人の生徒に丁寧な指導や助言を送ることができた。 |
| | | 会議等の効率化と研修の深化 | ・連絡体制の簡素化と情報伝達法の充実を図る<br>・職員研修の充実を図る。 | ・職員朝会の縮減<br>・ゆうネットの連絡回覧板活用について示し、利活用する。<br>・職員研修を長期休業日期間にも実施し、効率化を図る。 | A | ・昨年度まで毎日行っていた職員朝会を週２回に減らし、朝の時間に余裕を持たせた。また、必要な情報を紙面に残すことで口頭での発言を少なくすることができた。<br>・会議や研修等を考査期間中に入れずに休みを取得しやすくした。<br>・職員研修は、長期休業前後で行い、生徒理解、いじめ防止、人権教育、不祥事防止を柱にして必要に応じて複数回実施した。 |
| 学力向上 | 授業力の向上 | 「分かる授業づくり」の工夫 | ・研究授業の積極的な実施<br>・公開授業の活発化<br>・ユニバーサルデ | ・授業評価アンケートの実施<br>・公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内 | B | ・前期終了時、全教科での授業評価アンケートを実施できた。<br>・前期、公開授業を |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ザインの授業づくり<br>・ＩＣＴ機器の利活用<br>・ＡＬの推進 | | | 実施し、１年生の保護者が７名見学に訪れた。<br>・ＩＣＴの活用は、委員の方の手助けもあり格段に向上した。 |
| | 学習指導 個に応じた「分かる」 | 授業の理解と個別指導の充実 | ・授業理解についての肯定的評価を 80%以上とする。<br>・学習指導と評価が一貫した授業展開 | ・指導法、生徒理解情報の共有<br>・身近な題材、体験的活動的な学習<br>・観点別評価の更なる充実<br>・「学びの基礎診断」の活用 | A | ・肯定的評価は８割以上だった。<br>・観点別評価を全教科で取り組み理解度は向上した。今後、更なる研究の必要性を感じた。 |
| | 学習に対する意欲・姿勢 | 自ら学ぶ意欲 | ・学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を 100%とする。 | ・人権教育の視点に立った、個々に応じた授業づくり<br>・基礎基本の徹底、課題学習<br>・将来（進路）につなげる学習指導<br>・あゆみ学舎（公営塾）との連携 | A | ・課題の提出状況一覧作成、集会時における宿題提出の呼びかけ。考査前の学習会を実施した。<br>・１学年総探の授業で、あゆみ学舎と連携し、地域学習に取り組んだ。 |
| キャリア教育（進路指導） | 自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す | 自己実現に繋がる早期の目標設定 | ・進路目標の早期設定<br>（３年生は７月までに100%、1・２年生は２月までに70%） | ・キャリア教育の視点に立った進路学習の実施<br>・進路ガイダンス等への参加<br>・タイムリーな進路情報の提供<br>・二者面談や三者面談の実施<br>・あゆみ学舎（公営塾）との連携 | B | ・進路目標の設定は目標の数値を達成できた。<br>・進路ガイダンス等への積極的な参加を促し、進路意識を早い段階で高めることができた。<br>・生徒一人ひとりへの個に合わせた指導を行った。 |
| | | 進路目標実現のための努力 | ・就職・進学希望者全員の進路目標達成 | ・積極的な進路情報の収集と提供<br>・３学年や各教科との連携、情報の共有<br>・個別学習指導の実施<br>・進路ガイダンスや職場見学の活用<br>・あゆみ学舎（公営塾）への参加 | B | ・情報収集・提供を細やかに行い、生徒それぞれの進路目標の達成につなげた。<br>・学校説明会や応募前職場見学への積極的な参加を促すことで生徒の意欲を高めることができた。<br>・指導方法等の次学年団への引継ぎが必要である。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒指導 | 個を尊重した生徒指導 | 基本的な生活習慣と言語環境の整備 | ・生徒の適切な言葉遣いを育む<br>・授業への遅刻をなくす | ・様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ。<br>・授業時間を守る指導の徹底 | B | ・言葉遣いに関しては場に応じた適切な言葉遣いができてきているように思う。<br>・授業への遅刻はほとんどないようであるが、登校時刻の遵守が課題である。 |
| | 安心・安全 | 甲佐高校生としての自信と誇り | ・問題行動を未然に防ぐ<br>・生徒会主催行事の充実<br>（体育大会、青垣祭） | ・問題行動の未然防止のための職員間の情報共有及び保護者との連携<br>・昨年度の反省を生かした企画・運営 | A | ・懲戒指導としての問題行動は１件だった。職員間及び保護者との連携ができているように思う。<br>・学校行事への積極的な取り組みができた。 |
| | | 移動通信端末の危険回避と適切な利用 | ・インターネット<br>・ＳＮＳ利用が関係する問題行動件数の減少 | ・情報モラル講演会の実施<br>・インターネット・ＳＮＳ利用に関するアンケートの実施 | B | ・校内での大きな問題は発生していない。今後も啓発を続けていく。 |
| | | 交通安全教育の徹底 | ・交通事故件数ゼロ<br>・交通違反件数３件以内 | ・交通安全講話の実施<br>・通学方法別の状況把握のための校外指導の実施 | B | ・大きな事故等もなく交通安全への意識ができているように思う。 |
| 人権教育の推進 | 人権尊重の精神 | 人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成 | ・人権課題の解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成 | ・人権教育講演会、人権LHRの実施<br>・人権が尊重される環境づくり（授業、言語環境等）<br>・家庭訪問、面談を中心にした背景理解 | B | ・人権教育講演会、人権 LHR を実施した。家庭訪問や面談を積極的に行い、生徒およびその背景の理解に努めた。代議員に中心になってもらい SNS の使い方について取組を行った。 |
| | | 研修の充実と推進体制の強化 | ・計画的な校内研修の実施<br>・年間1回以上の校外研修等への参加 | ・人権教育推進委員会の活性化<br>・校内研修の実施<br>・校外研修への参加促進 | B | ・人権教育推進委員会を定期的に実施した。校内研修も計画的に実施した。<br>・校外研修は今年度も希望したものが中止になることもあり全員は参加できなかった。 |
| | 命を大切にする心を育む指導 | 自他の命を大切にする心の育成 | ・「自他の命を大切にする心」を育む取組の実施<br>・教育相談体制の充実 | ・職員会議、研修等による共通理解<br>・相談窓口等の周知<br>・ＳＣ、ＳＳＷ等の専門機関等との連携 | B | ・職員会議、研修等による共通理解を図った。相談窓口の一覧（プリント）を配付するなど周知を行った。ＳＣ、ＳＳＷ等との連携もできた。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| いじめの防止等 | いじめ防止と早期の発見 | 「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着 | ・生徒、職員、保護者の連携<br>・学校独自作成したＳＮＳの使い方等についての行動指標の点検（アンケート等で実施） | ・職員研修等の充実<br>・「心の絆を深める月間」に各クラスで代議員が中心となった学習と振り返りを実施<br>・ＳＮＳの使い方等についてのアンケートの実施 | A | ・代議員を中心に生徒主導で「きずな月間プロジェクト」を行いＳＮＳの使い方、言葉遣いについて考える取組を行った。<br>・６月と１１月にアンケートを実施した。 |
| | | いじめ未然防止のための組織的な取組 | ・生徒、職員、保護者の意識向上によるいじめ未然防止、早期発見、早期対応 | ・生徒会による働きかけ<br>・全校集会等を活用した、いじめ防止等の推進<br>・いじめ防止対策委員会の充実（定例開催、随時開催）<br>・職員会議、学年会等での共通理解と検証 | A | ・「甲佐高生のＳＮＳや言葉遣いで気を付ける１５のこと」の振り返りを行った。<br>・いじめ防止対策委員会を定例で開催した。 |
| 特別支援教育 | 個々への適切な支援 | 特別な支援を必要とする生徒の把握・対応 | ・個別の支援計画指導計画の活用<br>・生徒、保護者、専門機関との連携 | ・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証（校内委員会、職員研修での共有）<br>・各種機関との情報交換<br>・校内研修の充実 | B | ・指導計画の検証については十分ではなかった。巡回相談は２回実施し、職員向けの校内研修を行うことができた。 |
| | コミュニケーション能力を育む | コミュニケーションスキルやストレスに対処する力を身につける | ・ＳＳＴ、心理教育の実践<br>・コミュニケーションの機会を増やす | ・交流面談の実施<br>・ＳＳＴ、ストレス対処法LHRの実施 | B | ・ストレス対処法ＬＨＲは各学年１回以上実施予定であるが、ＳＳＴが十分でなかった。 |
| 保健環境 | 保健管理意識の高揚 | 健康に対する自己管理能力を高める | ・基本的な生活習慣、感染症予防意識の確立 | ・感染症予防の呼びかけ<br>・個別相談、保健委員を中心とした保健活動の実施<br>・「保健だより」などで健康情報を提供する。 | B | ・保健委員を中心に保健だよりによる啓発や感染症予防の呼びかけを行った。<br>・肥満予防に焦点を当てた保健活動や個別相談を月に２回のペースで実施できた。<br>・生活習慣は家庭との連携が不可欠であり、行動変容までには至っていない。家庭との連携が課題である。 |
| | 環境整備 | 安全管理と主体的に環境美化に取り組む意識の向上 | ・安全点検の実施<br>・環境ＩＳＯの周知<br>・感染症予防を意識した清掃活動 | ・職員による安全点検を学期に１回実施<br>・環境美化委員による環境ＩＳＯチェックの実施（週１回）<br>・生徒による教室の消毒（掃除時間）<br>・職員によるトイレや階段の手すりの消毒（放課後等） | B | ・各学期に安全点検を行い、危険個所の把握を行った。<br>・クラスによっては点検やフィードバックが十分ではなかった。<br>・各クラスよく取り組んでいた。<br>・生徒がよく使用する箇所で消毒を行 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | った。 |
| 地域連携（コミュニティ・スクールなど） | 学校運営協議会制度の充実 | 学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり | ・総合型学校運営協議会の組織的継続的な実施（年３回） | ・協議内容を精選したうえで丁寧な活動報告を行う。<br>・担当者との連携を深め、活発な意見交換・情報交換を促進する。 | A | ・学校の行事において、町や中学校、地元住民と多くの協働ができた。これも、学校運営協議会での意見交換があり、実施できたものと考える。来年度に向けて、検証も実施した |
| | 地域防災および防災教育の確立 | 生徒・職員の防災に関する意識の向上 | ・地域と連携し、地域における防災についての理解を深める<br>・異世代交流を通しての防災意識の向上 | ・地域と連携した防災訓練の実施<br>・町の防災訓練への参加<br>・避難訓練と関連付けた防災教育の実施 | A | ・３年ぶりに地域の方と合同で防災訓練を実施することができた。生徒たちも地域の方と交流ができ、いい機会となった。 |

| ４ 学校関係者評価 |
|---|
| ・甲佐高校は地域と連携した活動がよくできている。<br>・地元の中学校と協働してボランティア活動なども行っていければいい。<br>・スクールミッションを常に念頭に置いて、今年度の達成度はどれだけであったかを検証する視点が必要である。甲佐高校の存在意義や評価の位置づけとして、常にスクールミッションを念頭に置いた教育を実践すべきである。<br>・生徒募集に対して、目標に達していないので、さらに対策を講じる努力が必要である。<br>・今年度は、国公立大学合格者を出すなど進路面は良好と聞いている。合格者の数字を残していくことが高校のＰＲにつながっていく。<br>・高校のＰＲをもっとすべきである。大学合格や部活動での上位進出などの看板を同窓会が設置したらどうか。<br>・地域連携の中で、甲佐町公営塾あゆみ学舎の利用者をもっと増やしてほしい。大学入試のあり方が変わってきている。連携をもっと増やしながら進路に対する意識を高めてほしい。<br>・新入生を増やすためにも、もっとパンチ力の効いた仕掛けが必要ではないか。ある自治体と高校の連携は大きな成果を上げている。<br>・業務改革や働き方改革は進んでいて、超過時間の減少につながっている。よりタブレットの活用やＤＸ化を進めていってはどうか。<br>・主権者教育の一環として出前授業などが行われているが、町議会参加も町の実情を知る機会になる。<br>・ＳＮＳから発生する問題を未然に防ぐ対応ができている。 |

| ５ 総合評価 |
|---|
| １　本年度の学校教育目標<br>・地域と連携しながら地域資源を活用し、校内外にて体験型学習の機会を多く持つ教育が実践できた。また、一人一人の生徒の個性を大切にしながら、個に応じた指導を全職員の共通理解のもと行うことができた。今後も、スクールポリシーのもと、本校の魅力化を広めながら、在校生の満足度を高める教育を追及する。<br>２　本年度の重点目標<br>・基本的な生活習慣の確立と生徒支援をベースに、あらゆる教育活動の中で生徒に「生きる力」を養う教育を行った。同時に、職員の教科指導力の向上や評価法の策定を進めた。熊本スーパーハイスクール（KSH）事業のクリエイトハイスクール指定により地域探究活動等で地域との連携を深め、また、本校の教育活動を広報する機会を得た。新型コロナウイルス感染症のために中断していた地域の合同避難訓練や町の文化祭参加により開かれた学校づくりをすすめることができた。今後も職員、生徒が一丸となり学校の活性化を進める教育活動を展開する。<br>３　自己評価総括表に対する評価<br>・本校の自己評価について、学校運営協議会からの肯定的な意見が多く、概ね好評を得た。特に、地域との連携、学力向上、いじめ防止、教育相談体制に関しては高評価であり、全職員の共通理解のもと遂行されている。今後は、教育目標に沿った教育活動の質を高め、生徒の育成を進め、本校の魅力を発信する機会を多く持ちながら学校経営を進めたい。 |

| ６ 次年度への課題・改善方策 |
| --- |
| 本校の教育活動は概ね目標を達成しているものもあれば、課題が解決されていないことも多く、目標達成に遠いものもある。特に、以下の１～３は生徒募集に深く係る項目として、取組みの柱として強化していきたい。<br><br>１　本校の魅力化の推進（生徒募集）<br>①学校ＨＰで本校の活動の紹介が行われているが、タイムリーな日常の生活からイベントまでその発信回数を増やす。<br>②クリエイトハイスクール事業やOneteam事業を通して、本校の魅力が地域の中学校や多くの人に伝わるよう活動幅を広げる。<br><br>２　地域連携の強化<br>①これまで以上に甲佐町との連携を深め、地域探究活動や町の行事参加等を計画的に行う。<br>②本校内に設立されている甲佐町公営塾「あゆみ学舎」との連携を進める。特に日頃の学びなおしや校外活動の計画的な実施により、生徒の入塾を増やし学ぶ機会を広げる。<br><br>３　進路保障の強化<br>３年間を見通した進路目標を持たせるだけでなく、目標達成のための組織的対応の早期実施や個別対応を計画的に行う。 |